

あなたはそこにおられるのですか。

10月8日、パキスタンのカシミール地方を、マグニチュード8弱の猛烈な地震が襲った。当初死者数は1万数千人と言われていたが、やはり刻々とその数は増え、現時点で四万弱が報告されている。倒壊した家々やビル、学校…。あらゆる崩れた建物の下に、遺体そのままになっているという。自分の子どもや連れ合いや、父や母…。家族の遺体が建物の下になっているのが見えていてどうにもならない、というケースも無数にあるという。

地震発生から一週間以上が経過し、町や村は死体の腐敗臭に満ちている、と報告されている。負傷者の数も6万～7万が報告されている。しかし交通や情報が遮断され、まったく被害状況がわからない集落も沢山あるという。今後死者の数はさらに増えるだろう。いわば「原爆級」の被害が発生したことになるのだ。現地では医療関係者たちが必死で働いているだろう。医師たちや看護師たちが頑張っているだろう。しかしこれだけ多くのけが人が突然生み出されたのだ。圧倒的な数の患者が押し寄せる病院。そこも地震の被害を受けているだろう。避難所は機能しているのだろうか。そこに医師たちは派遣されているのだろうか。医師が足りない。看護師が足りない。医薬品がない。医療器具がない。ケガをした人たちの手当てもままならない。みんなケガをしている。骨折や裂傷などを負っている。しかし縫うことができないので、傷口はどんどん化膿していく。わかっていてもどうすることもできない。悔しい思いをしている医療関係者たちが大勢いるだろう。

パキスタンのムシャラフ大統領はこの未曾有の震災に対して、初動の対応に遅れがあったことを認め、謝罪している。首都イスラマバードでの対応だけに気をとられ、カシミール地方での被害の状況把握と対応の構築ができなかったのだ。家を失った人々の数は3百万人を超えるという。厳しい冬が近づくなか、雨をよけるシートがない。テントがない。服がない。食べ物がない。救援物資も届けられているが、需要に対して供給は圧倒的に少ない。物資の奪い合いや略奪も行われているという。冷たい雨が降る中、雨をよけることもできず、子どもたちは唇を紫にしながら震え、弱っていつているという。

秋が深まると次第にホームレスの人々からブルーシートや毛布を求める声が高まる。そしていよいよ冬を迎えると、毛布や上着を求めてみんな必死になり、殺気立ってくる。そんな人々の切迫し、疲れた哀しい顔と、パキスタンの人々の表情がそのまま重なる。そうだ、数百万の人々が一気にホームレス化したのだ。

嗚呼、神よ。主よ。あなたはそこにおられるのですか。
人々と共に痛み、嘆き、 叫んでおられるのですか。
主よ、どうか人々と共にいてください。寒さに凍える子どもたちと共に。
家族を、大切な者たちを失った人々と共に。
瓦礫の下敷きになって亡くなった者たちと共に。
必死に生き延びようとしている者たちと共に。
懸命に被災者たちを助けようとしている者たちと共に。

「おお、主よ、今はここに！」（金芝河・「金冠のイエス」より）

市川ガンバの会は、市川八幡キリスト教会の教会員を中心に1997年11月に発足し、活動を続け8年を経過しました。2003年3月には、NPO法人化しました。現在は近隣のバプテスト教会やカトリック教会をはじめ、市川市民の方々の協力のもと、市川市内250名のホームレスの生活支援、居宅された方々の生活支援を中心に活動しています。活動内容は、次の通りです。

夜間パトロール；毎月第一・三・五の金曜日に、おにぎりやみそ汁、衣類、医薬品などを持って、三コースに別れて巡回しています。30名ほどのボランティアが参加します。

医療支援；健康相談を行なうと共に、医療が必要な人たちには行政交渉を行ないながら、医療機関に結びつけています。入院になった方々には入院に必要な物資を提供すると共に、継続的に病院訪問を行なっています。

葬 祭；無念にも路上で亡くなられた方々の葬儀を随時行なっています。また毎年1月に「新年会」を、8月に「夏祭り」を開催し、これらの方々の追悼会を行なうと共に、故郷気分を味わいながらの交流を続けています。ここでは医師による健康相談、司法書士による債務相談、市川市福祉職員による生活相談なども受け付けています。

居宅支援；路上生活からアパートへの入居を進めています。ガンバの会の自立支援住宅や貸付金制度を用意しています。また市川市が2003年度から自立支援住宅事業を始めるようになり、これらを利用して、これまでに85名の居宅を実現しています。

居宅者生活支援；アパート生活を始められた方々が、孤独に陥ることがないように定期的に訪問をし、相談などを受けています。また、居宅者同士の交流会を開催、食事会やピクニックなどにも出かけます。また、年に一度はバスを貸し切った温泉旅行に実施しています。

また今年4月からは「ガンバ農園」を開園し、希望者に開放しています。

就労支援；路上生活者の就労希望者に、地元の信頼のおける飯場と提携し、就労先を紹介しています。

行政との協働；千葉県や市川市の事業に協力し、これまでに7回の結核健診を開催しています。今年から血液・尿検査も行なわれるようになりました。また、2003年度より市川市より巡回指導相談事業の委託を受けて、連日の巡回を行なっています。

情報・啓発；ニュースレターを年2回発行しています。また啓発活動は、これまでほとんど行なうことができませんでしたが、今年12月に初めて映画の上映や居宅者の証言などのプログラムで行なう予定です。

その他；必要に応じて、行政交渉などを行なっています。最近、千葉県内の他市からの相談も多く、これに応じています。また、万引きなどの犯罪を犯した人の身元引き受けを行ったり、裁判に至ったケースにおいて接見・差し入れ・傍聴などを行ない、時には証人も引き受けています。

【ひと言】

最近、とみに路上生活者の中に、知的・精神・発達障害を有する人たち、また刑務所から出所した人たちが目立ってきました。受け入れてくれる人(場所)がない、帰る場所がない人たちの現実、社会・行政の冷たさを実感させられています。ホームレス支援の現場では、この他DV被害者などにも接し、現代社会の縮図を見る思いです。現在は、他のNPOなどと連携を取っていますが、今後は専門知識を有する人の参加・協力を必要としています。

信仰告白

大島ユキ子（市川八幡教会）

これからバプテスマを受けることになりましたけれども、私は小さい時に熊本の島崎修道院で幼児洗礼を受けた事があります。

私は子どもの時から18歳になるまで島崎修道院愛児園に預けられ、それから就職をして熊本市内のバーで大嶋と知り合い結婚、そして大嶋と二人で千葉県習志野市内に大嶋のお父さん、お母さんが住んでいたのそこへ移りました。一平、次平の二人の子どもが与えられてから、大嶋はヤクザの世界に入り、刑務所に入りました。三人目の美記は、大嶋が刑務所の中に入ってしまい産むことを悩みましたが、結局美記は女の子で逆子でしたが習志野大久保の国立病院で産みました。美記が生まれて良かったと今つくづく思っています。

その後、出所してきた大嶋は身勝手に家を出てしまいましたが、結局子どもの福祉手当が欲しくて、三人共、今の奥さんが一緒に引き取っていきました。それから私も酒びたりになって日本酒一升酒を飲むようになりました。

その後、市川の本中山のスナックで働いていた時、上原という男性と知り合いました。上原は一度も

働いたことがありません。それで私が本中山のおそば屋さん、おにぎり屋さんで働いてお金を稼ぎました。けれども、お金に困りアパートを出て路上生活を上原と始めるようになりました。下総中山駅の架線の下で生活するようになりました。上原にはぶん殴られては逃げ回って、ダンボールを探して女一人で隠れて寝るところを探し回っていました。でも追いかけられてはいないかと落ち着きませんでした。その後はまた見つかって連れ戻され、いつも恐さの中で生活していました。

それから食べる物、飲み物もなくなって、上原に命じられては下総中山のダイエーで万引きするようになりました。市川警察署に13回窃盗罪で捕まりました。市川署の中の留置所にも入りました。ガンバさんにお世話になったのは、本中山駅の架線の下で上原と私と、後四人ぐらいで寝起きをしたり、飲んだり、食べたりしていた頃でした。毎日毎日酒びたりの生活で、私も神経がおかしくなりました。上原から暴力を受けて病院通い、やけど、ケガなど、あの頃を知っている人も多いと思います。

私もいろいろな人たちとのめぐり合いがありました。上原が殺人で刑務所に入ったのを機に、今はアパートでの生活が与えられ、感謝の気持ちでいっぱいです。あれから三年になりますが、市川八幡キリスト教会で、20年ぶりに一平、美記、孫たちにも再会することができました。

教会に通うようになって、私のためにイエス・キリストさまが十字架で私の代わりに罪を負って下さったことを知りました。過去のこと、知られたくないこと全部を話す必要がないと言われましたけれども、今の私は昔の私とは違う新しい道を歩んでいるので、明らかにしたいと思いました。本当に教会は素晴らしいところだと思います。イエス・キリストさまに感謝の気持ちでいっぱいです。まっすぐな道を歩んで、これからもお祈りの勉強をして、しっかりと覚えていきたいと思います。

今は生活保護を受けています。でも、とても感謝です。皆、周りの人たちの温かい心を持って接してくれているからです。何も分かりませんが、これからもどうかよろしくお願い致します。

天のお父様、イエス・キリストの御名によって、感謝致します。

2005年3月27日

大島ユキ子

2005年シンポジウム報告

廣島 尚（福岡教会）

9月26日(月)から9月28日(水)にかけて、シンポジウムが行われた。ホームレス問題は単なるハウスレスとは違い、仕事や居宅という生活基盤の回復と同時に、ホーム(家庭、人間性)の回復が必要不可欠な問題である。今回は『ホームを問う』ということに焦点が当てられた。

一日目は大井教会。開会礼拝は副田一朗牧師(市川八幡教会)から、奴隷だったオネシモを愛する兄弟として受け入れてくれるようにと頼んだパウロの「フィレモンへの手紙」から、教会がホームとしてすべての人を受け入れる用意があるかを問われた。

夜は孫裕久(ソン・ユング)牧師(教団川崎戸手教会)をお迎えして、ご自身の在日としての体験から、人と本当に出会うためには互いに傷つき傷つけられるが、それを恐れていては出会いが起こらないことを教えられた。人と関わらなければ傷つくこともないが、出会いも生まれない。

二日目は加藤英治牧師(高崎教会)から、現場での問題について発題を受けた。「中途半端に来るなら、来るな」、「あなたがたに人に痛みはわからない」。関わる者は批判を受け、関わらない人たちは決して批判を受けることはない。しかし、人が関わらないところにこそ、主が先立って働いておられる。

午後は大谷心基牧師(京都教会)より「世界状況における関係性(ホーム)を問う」という発題をいただき、「自己愛」をテーマに産業革命時代から説き起こし、現代社会に生きる私たちにとって本当に必要なことは、他者への愛、神への愛へと向かう責任と応答によって自己愛から解放されることであると学んだ。

夜は、新宿のホームレス生活から脱出した人を描いたドキュメンタリー映画「あしがらさん」を見た。ホームレス支援は、助ける人と助けられる人が固定化しているのではなく、支援する側と支援される側の立場が交代するような、相互互換的な関係の中で行われていく。

三日目は委員会を開いた後、閉会礼拝では谷本仰牧師(南小倉教会)より、最も小さい者にしたのは私にしてくれたのと同じことなのである、という箇所から、小さい者とはホームレスの人たちのことであり、そして私たち自身であることを学んだ。

関係性を奪われた人たち(ホームレス)と関わる時、いつも痛みが伴う。ホーム(関わり)を求める叫びがある。傷つき傷つけられる中で、それでも関わり続けることで、真のホーム(関係性)の構築が始まっていく。痛みの中で、破れを担って立つ主と出会う。関係性を創造する主と。

ホームとは何か、教会がホームとなり得ているのか。ホームレス支援は教会が問われているのである。

ホームレス支援教会一覧

当委員会が把握しているホームレス支援を定期的に行っている地区と教会、支援者が所属している教会は以下の通りです。活動の問い合わせ教会のみ電話番号を記しました。当委員会が把握できていない情報、「ここでもやっているよ」「うちでもやっているの載せてほしい」という情報がありましたら、ぜひ、連盟事務所気付、ホームレス委員会あてご一報くだされば幸いです。

尚、ここに記していない教会・伝道所以外にも、献金や物資献品などを通して支援活動をささえてくださっている教会・伝道所が多くあります。皆様の関心とお祈りを感謝いたします。

【高崎地区】

日本バプテスト連盟高崎キリスト教会
027-353-6228

【市川地区】

日本バプテスト連盟市川八幡キリスト教会
047-332-5197

日本バプテスト連盟市川大野キリスト教会
栗ヶ沢バプテスト教会

日本バプテスト浦和キリスト教会

【藤沢地区】

藤沢バプテスト教会
0466-23-1088

【平塚地区】

平塚バプテスト教会
0463-33-2320

【岐阜地区】

岐阜バプテスト教会
058-265-0881

愛知新生キリスト教会

【京都地区】

日本バプテスト京都教会
075-231-1351

【平野地区】

平野バプテスト教会
06-6708-5852

日本バプテスト連盟シオンの丘教会

【兵庫地区】

日本バプテスト連盟浜甲子園教会
0798-41-5300

宝塚バプテスト教会

尼崎バプテスト教会

神戸国際バプテスト教会

神戸バプテスト教会

神戸西バプテスト教会

神戸伊川キリスト教会

【香川地区】

日本バプテスト連盟恵キリスト教会
087-861-0523

【北九州地区】

日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会
093-651-6669

南小倉バプテスト教会

日本バプテストシオン山教会

若松バプテスト教会

日本バプテスト枝光キリスト教会

直方バプテストキリスト教会

【福岡地区】

日本バプテスト福岡基督教会
092-741-6256

バプテスト東福岡教会

平尾バプテスト教会

長住バプテスト教会

粕屋バプテスト教会宇美伝道所

【久留米地区】

日本バプテスト連盟久留米荒木キリスト教会
0942-27-0116

日本バプテスト連盟久留米キリスト教会

【沖縄地区】

日本バプテスト連盟那覇新都心キリスト伝道所
098-942-4775

もうお読みになりましたか？

「2003ホームレス支援に関するシンポジウム報告書」（2005年6月発行）

～委員会によせられた感想から～

これを脇に置いて、聖書
を読んだら、いままでと
は違った聖書の読み方を
教えられました。

（70代・牧師）

神様が望んでおられる事に人
間として、教会として求め応
えていく姿を、様々な言葉か
らいただき、感謝です。

（20代・信徒）

たくさんの光る言葉に出
会いました。線をひきなが
ら読みました。

（30代・信徒）

* 報告書については連盟事務所、または上記の支援教会にお問合せください。